

保育園をたずねて



六月十九日は父の日。それに先がけて、父と子の運動会が十五日に行われました。リレー競技では、「バトン」は、よそのお父さんに渡しちゃダメヨ」の保母さんの声に、お父さんたちはにが笑い。子どもたちから似顔絵などもプレゼントされ「なかなかよく書いてくれるな」「今度は、もっとうまく書いてくれよ」などの声も出て、最初ムツリ顔のお父さんも、最後には子ぼんのうぶりを発揮していました。

大好きお父さん

大育園 保園 驚

図書館を利用して



知識を得るのに役立ちます
笠原コトさん (幸町)

始めは、行くのがおっくうでしたが、行ってみると早くから来れば良かったなあーと思いました。

私たちが読んでもためになる本がたくさんありますもの……



学校に近いから便利
阿部 勝くん (みの口)

学校に近いから便利です。今ぼくたちの間では、自動車に人気があるよう。自動車の本をたくさん置いてください。



童話が好き
高橋恵子ちゃん (保坂)

私は童話の本が好きで、ここによく来て読んでいます。

童話の本を、たくさん置いてほしいです。それに、歩くと床がギョッと音をたてるので、直してください。



もっと広くして
皆川謙一くん (栄町)

よく来て本を借りていきます。まんがの本や、かいじゅうの本が、もっとあったらいいと思うんだ。それと、ここがもう少し広ければいいと思います。

市立図書館にある本の数

(3月31日現在)

哲学	655冊
歴史	1,685冊
社会科学	1,775冊
自然科学	490冊
工学	346冊
産業	533冊
芸術	830冊
ことば(語学)	268冊
文学	8,604冊
児童の本	1,745冊
その他	1,621冊
合計	18,552冊

市立図書館には、現在一万八千冊以上の図書があります。今年も、百四十万冊余りの経費で約一千冊の新しい図書や資料などを購入する予定です。この経費、市民一人当たり

換算すると約四十四円です。図書館は、これらの資料を使って、市民のみなさんに役立ついろいろな奉仕活動を行っています。いつでも、だれでも利用してもらえよう……。そこで

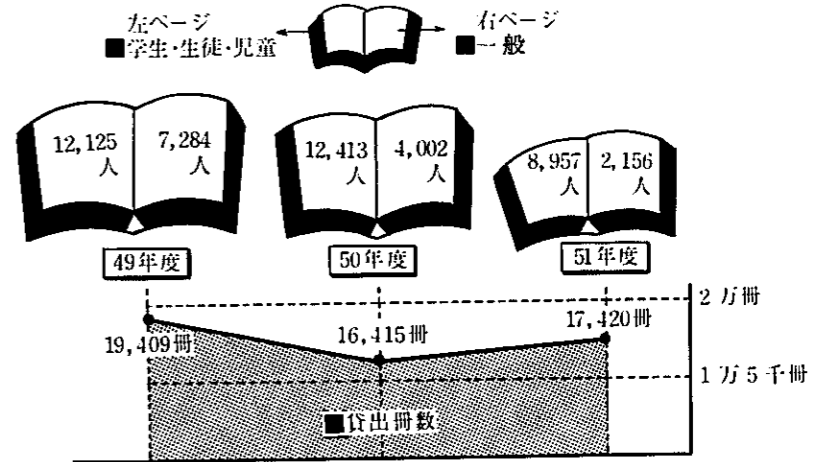
市民一人当たりの図書費は約44円

市民のみなさんが、少しでも本の出会いがあるように、ちょっと図書館をのぞいてみましょう。

配本所のご利用を

図書館は、日曜、祝日、びく書(本の虫ほし)期間、年末年始を除いて、毎日開いています。時間は午前十時から午後五時までで、火・金曜日は午後八時まで開館しています。図書館の館外奉仕活動には、貸出し文庫があります。これは、図書館から遠い地域の

図書館の利用状況



の人たちのために、地域ごとに配本所を設け、本を貸し出しています。さらに新しい試みとして七月から保育所にも本を置き、園児の父兄を対象に貸し出します。ところで、あなたは図書館を利用されたことは? 昨年は、約一万一千人が利用しました。これは、市人口の三八%にすぎません。それに年々利用者数も減っています。もっと

と多くの人が図書館を利用すべきでは……。愛読される本を見ると、一般の人には、ベストセラー物か新刊書。子どもたちには、SF物、ジュニアミステリーなど、高学年になると、文学全集を読む子が多く見られます。あなたの役に立ちたいのです。館内をちょっと紹介してみましよう。ママさんコーナーには、料理の本や婦人公論、女性百科などがあります。児童コーナーには少年少女世界の名作文学など、子どもたちのための本が……。県立図書館文庫には、学生の勉強に役立つ参考書が置かれています。また、北国文庫というコーナーもあります。これは白根地区のある人が、ひとりでも多くの子どもが本を読んで、すなおで豊かな心の持ち主になってほしいと、寄贈されたもの……。このように図書館は、いろいろな本をそろえ、いますぐあなたの役に立ちたいのです。



小野ミツイさん

「会員の声」

忙しいくとはばかりいっていてもはじまりませんもの。本を読むことで、少しでも心にゆとりができれば……。それに、いろいろな人と話し合いで帰って、すばらしいです。

「地域に読書の輪を広げよう」という、連合婦人会の提唱を受けて、今年の一月に誕生したのがこの会です。会長の田沢靖子さん宅で毎月第二水曜日の夜七時三十分から、学習会を開いています。メンバーは十六人



「中味の濃い会にした方がいいがみんなの願い。そのために学習会は輪番制を設けています。今夜は、針貝さんの番だったね」「ハイ、私の好きな吉野

「なれないうちは大変でしょうが、自分で読んだ本を、みんなで話し合うことは、勉強になります」と田沢さん。忙しいくとはばかりいっていてもはじまりませんもの。本を読むことで、少しでも心にゆとりができれば……。それに、いろいろな人と話し合いで帰って、すばらしいです。



地域に読書の輪を広げよう

瀬川 庄 読 書 会

「地域の読書の輪を広げよう」という、連合婦人会の提唱を受けて、今年の一月に誕生したのがこの会です。

「なれないうちは大変でしょうが、自分で読んだ本を、みんなで話し合うことは、勉強になります」と田沢さん。